

基本的な考え方	大目標	中目標	分野	現状	課題	目標項目	現状値	H29年度目標値	(行政)取組	(部会)取組
健康づくりはひとひとり・まちごと 私たちは、共に楽しんで健康づくりに取り組めます	定期的な健康(検)診を受ける	生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病)	〇胃がん、大腸がん、肺がん検診受診率：増加傾向 〇子宮がん、乳がん検診受診率：増加傾向だったが、平成23・24年度は減少 前立腺がん検診はH24年度から開始	⇒がん検診受診率が低い。	・各種がん検診の受診率の向上	胃がん 15.9% 大腸がん 17.7% 肺がん 26.7% 子宮がん 14.3% 乳がん 14.2% 前立腺がん 13.5% (H24実績)	50% (胃がん・肺がん・大腸がんは当面40% H28)	・家庭訪問 ・健康教育 ・健康手帳の交付 ・地区組織との協働 ・医師会との連携 ・商工会議所との連携 ・職域との連携 ・ステーションとの協働	ステーション	
			◎68.0%の人が毎年健診を受診。 ◎健康診断を受けない割合が高い年代：①20歳代・80歳代女性:26.3%、30歳代女性:24.3%、70歳代男性:21.0%	⇒健康診断を受けていない人がいる。	・健康診断を受けている人の割合の増加	83% (H24実績)	100% に近づける	・家庭訪問 ・健康教育 ・医師会との連携		
			〇平成24年度がん検診精密検査受診率：胃がん91.7%、大腸がん72.6%、肺がん92.4%、子宮がん83.3%、乳がん98.0%、前立腺がん73.5%	⇒精密検査を受けていない人がいる。	・精密検査受診率の増加	30.4% (H23実績)	60%	・地区組織との協働 ・ステーションとの協働		
			〇平成20～22年度の特定健診受診率：26～27%(ほぼ横ばい) 〇平成23年度：30.4%(30%を超えたもの、目標の60%には、ほど遠い状況)	⇒特定健診受診率が低い。	・特定健診受診率の向上	6.0% (H23実績)	60%	・健康教育 ・医師会との連携		
			〇平成20年度特定保健指導実施率(初年度)：11.0% 〇平成21年度特定保健指導実施率は21.6%と上昇したが、それ以降は下降	⇒特定保健指導実施率が低い。	・特定保健指導実施率の増加	79%	増やす	・健康教育 ・地区組織との協働 ・部会との協働 ・ステーションとの協働		
	運動習慣を身につける	身体活動・運動	◎体を動かすことを意識している人 ⇒ 50歳代まで約70%前後、60歳以上約90% ◎常に体を動かすことを意識している人 ⇒ 若い年代に少なく、60歳代から急激に増加 ◎男性：体を動かしている人は、どの年代も60～70% ◎女性：若い年代で体を動かしている人は少なく、60歳代から増加	⇒体を動かすことを意識しているが、実際に体を動かしていない人がいる。	・日常生活の中で体を動かすことを意識している人の増加 ・スポーツや運動など体を動かしている人の増加	57%	増やす	スポーツ部会 ステーション		
			◎「SOS おきよう体操」の名前も知らない人は73.3% ◎40歳までは「SOS おきよう体操」をほとんど行ったことがない	⇒SOS おきよう体操を知っている人が少ない。	・SOS おきよう体操を知っている人の増加	27%	増やす		スポーツ部会 情報部会	
	正しい食習慣を身につける	食生活	◎朝食を摂取している人 ⇒ 毎日:83.8%、週4～6回:6.8%、週1～3回:5.8%、0回:3.6% ◎毎日朝食を摂取している人の割合の低い年代及び性別 ⇒ ①20歳代男性50.0%、②20歳代女性65.3% ◎10～30歳代及び40歳代男性で、毎日朝食を摂取している割合が低い。	⇒毎日朝食を摂取していない人がいる。	・毎日朝食を食べる人の割合の増加	84%	増やす	健康教育 ・地区組織との協働 ・幼・保・小・中との連携 ・部会との協働 ・ステーションとの協働	スタイル部会 ステーション	
			◎毎回野菜を食べる人の割合 ⇒ 24.7%(20～30歳代:15.9%、40～50歳代:19.5%、60歳以上:37.5%) 年代が若いほど、野菜摂取の割合が低い。	⇒野菜摂取頻度が少ない。	・野菜摂取頻度の割合の向上	24.7%	増やす			
			◎「食事バランスガイドを知っているが、食事の参考にしない」と回答した人の割合 ⇒ 20～30歳代:52.3%、40～50歳代:45.1%、60歳以上:32.9% 年代が若いほど、認知度・活用度の割合が低い	⇒食事バランスガイドの活用度が低い。	・食事バランスガイドの認知度・活用度の向上	活用度 32.2% 子ども(認知度) 51.6%	60%以上 80%以上			
			◎「食育という言葉聞いたことはあるが、関心がない」と回答した人の割合 ⇒ 20～30歳代:29.5%、40～50歳代:35.1%、60歳以上:16.5%	⇒食育への関心が低い。	・食育の関心度の向上	26.6%	増やす			
	禁煙を実行する	喫煙	◎喫煙の割合 ⇒ 男性：20～50歳代:約30%、60～70歳代:約20% 女性で喫煙の多い年代：①20歳代:13.7%、②30歳代:9.2%	⇒若い年代での喫煙が多い。	・煙草を吸っている人の減少	12%	減らす	・健康教育 ・母子健康手帳交付時の面接 ・医師会との連携 ・ステーションとの協働	スタイル部会 ステーション	
	定期的な歯科健診を受ける 正しい口腔ケアを習慣化する	歯と口腔	◎嘔むことを意識している割合が低い年代 ⇒ 男性50歳代まで:約40%、女性40歳代まで:約50% ◎男女で比較すると、どの年代も男性の方が嘔むことを意識している割合は低い。	⇒嘔むことを意識していない人がいる。	・嘔むことを意識している人の割合の増加	56%	増やす	健康教育 ・幼児健診 ・歯科医師会との連携 ・部会との協働 ・ステーションとの協働	スタイル部会 ステーション	
			◎毎年歯の定期検診を受けている人:26.4%、2～3年に1回:13.6%、不定期(3年に1回以下):20.0%、受けていない人:39.9% ◎歯の定期検診を受けていない人 ⇒ 男性:20代～50代で約50～60%、女性:20代で54.7%、30～50代で約40%	⇒歯の定期検診を受けていない人がいる。	・歯の定期健診を受けている人の割合の増加	26%	減らす			
			〇平成24年度幼児健診のう歯罹患率 ⇒ 1歳6か月健診:2.0%、3歳6か月健診:32.7% 〇1人当たりのう歯数 ⇒ 1歳6か月健診:0.06本、3歳6か月健診:1.2本 〇12歳児におけるう歯のない人(永久歯)の割合:44.41%(13市の中でも2番目に悪い状況)	⇒う歯の罹患率が高い。	・う歯のない人の増加	1歳6か月児 98.0% 3歳6か月児 67.3% (H24実績) 12歳児 44.41% (H24度子どもの歯科保健統計)	増やす			

基本的な考え方	大目標	中目標	分野	現状	課題	目標項目	現状値	H29年度	基本的な考え方	大目標		
健康ついでにはらへんけんかひん	私たちは、共に楽しんで健康づくりに取り組みます	次世代の健康づくり	次世代の健康	○妊娠11週以内妊娠届出の割合 ⇒ 24年度:94.1%(山口県の92%(H23)よりも高い)○妊娠届出28週以降の割合 ⇒ H23年:0.6%、H24年:1%(山口県の0.4%より高い)○年代別 ⇒ 20歳未満で妊娠11週以上の妊娠届出の割合:75.0%(他の年代に比べて高い)	⇒妊娠届出時に、妊娠11週以上の人がいる。	・妊娠11週以下での妊娠届出率の増加	妊娠11週以内 94.1% (H24実績)	100%に近づける	・家庭訪問・健康教育・母子健康手帳交付時の面接・乳幼児健診・広報・医療機関との連携・地区組織との協働・保育園、幼稚園等関係機関との連携・ステーションとの協働	ステーション		
				○低出生体重児の割合 ⇒ H23年:9.7%、H24年度:11.1% 低出生体重児は近年微増傾向	⇒低出生体重児の割合が高い。	・全出生児数中の低出生体重児の割合の減少	低出生体重児 11.1% (H24実績)	減らす				
				○乳幼児健診受診率 ⇒ 近年横ばい傾向(山口県と比較すると、受診率は高い)	⇒乳幼児健診の受診率が100%ではない。	・乳幼児健診の受診率の向上	1か月児 94.4% 3か月児 97.9% 7か月児 96.3% 1歳6か月児 98.7% 3歳6か月児 94.6% (H24実績)	100%に近づける				
				従来の定期予防接種 ⇒ BCG、三種混合、二種混合、ポリオ、麻しん、風しん、日本脳炎 平成24年度:単独不活化ポリオ、4種混合開始 平成25年度:ヒブ、小児肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチンが定期予防接種に追加 OMR(麻しん風しん予防である)2期の接種率:93.7%(全国目標値である95%より低い)	⇒予防接種の未接種者がいる。	・予防接種率の向上	BCG 84.3% 二混 80.1% MR1期 105.5% MR2期 93.7% (H24実績)	100%に近づける				
	私たちは、生きがいや楽しみの場をつくりまします	地域や社会とつながりを持つ 相談できる人を持つ 役割や趣味をつくる	心の健康 (休養含む)	○自殺死亡者数 ⇒平成18年:14人(男性12人、女性2人)、平成19年~21年:16人(男性12人、女性4人)、平成22年:12人(男性9人、女性3人)、平成23年:23人(男性16人、女性9人) ○平成23年の自殺死亡率:38.9人(13市の中で一番高い) ○20~50歳代の自殺者が約60%を占め、働き盛りの自殺者が多い。	⇒自殺死亡率が高い。	・自殺死亡率の減少	38.9人 (H23保健統計年報)	24.6人(H28)【H17の20%削減】	・ソーシャルキャピタルの推進 ・健康教育 ・健康相談 ・相談窓口の充実 ・広報 ・商工会議所との連携 ・職域との連携 ・ステーションとの協働	ステーション		
				◎ストレスをいつも感じている人の割合が高い年代 ⇒ 男女とも30~50歳代(約20~30%の人がストレスを感じている) ◎ストレスと人とのつながりとの関係(ストレスをいつも感じる割合) ⇒ 人とのつながりがない人:約40%、人とのつながりがある人:約17%【人とのつながりがある人の方がストレスが少ない】 ◎ストレスと運動習慣との関係(ストレスをいつも感じる割合) ⇒ 運動をよくする人:10.2%、ときどきする人:14.9%、あまりしない人:23.5%、全くしない人:32.2%【運動習慣によって、ストレスをいつも感じる割合に差がある】 ◎ストレスとサークル活動との関係(ストレスをいつも感じる割合) ⇒ 《文化系サークル》よく参加する人:14.1%、参加しない人:24.7% ⇒ 《運動系サークル》よく参加する人:11.3%、参加しない人:25.7%(2倍以上)【サークルに参加している人の方がストレスが少ない】	⇒若い世代(働き盛り)でストレスを感じている割合が高い。	・ストレスを感じている人の割合の減少	77%	減らす			・健康教育 ・健康相談 ・地区組織との協働 ・ソーシャルキャピタルの推進 ・部会との協働 ・ステーションとの協働	スマイル部会 ステーション
				◎睡眠や休養がとれていないと感じている人 ⇒ ①10歳代男性:37.7% ②40歳代女性:38.8% ③30歳代男性:35.4% ◎男女とも10~50歳代で睡眠や休養がとれていないと感じている割合が高い。 ◎ストレスと睡眠・休養には、明らかな関連が認められている。	⇒睡眠や休養がとれていないと感じている人がいる。	・睡眠や休養がとれている人の増加	78%	増やす			・健康教育 ・健康相談 ・部会との協働	スマイル部会 スポーツ部会
	私たちは、健康情報を分かち合います	健康情報を得る方法を確立する 専門的な相談機関をもつ		◎相談窓口を知っている人 ⇒ 60歳代以上男性及び50歳代以上女性:約80% ◎相談窓口を知らない人 ⇒ 20歳代:57.6%、30歳代:41.7%、40歳代:32.3%	⇒相談窓口を知らない人がいる。	・相談窓口を知らない人の減少	34%	減らす	・広報 ・幼児健診に併せてPR ・母子健康手帳の交付時の面接 ・部会との協働 ・ステーションとの協働	情報部会 ステーション		
				◎計画、ステーション、かたつむりで行こう会、ホームページの周知状況 ⇒ 一番多い計画の周知でも約20%と低い。	⇒計画の認知度が低い。	・次のことを知っている人の増加 A. SOS健康づくり計画 B. SOS健康・情報ステーション C. SOSかたつむりで行こう会 D. SOSかたつむりで行こう会のホームページ	A.21.7% B.17.3% C.15.8% D.7.90%	増やす			・健康教育 ・広報 ・SOS健康フェスタ ・部会との協働 ・ステーションとの協働	情報部会 ステーション

◎中間評価アンケート等【1,643人(食育に関する市民意識調査アンケートは1,836人)】から課題を抽出
○保健事業の実績値から課題を抽出